

「地元の郷土文化を通して豊かな感性を養う」

～相看ペーロン部の24年の取り組み～

カテゴリー：④地域連携或いは⑤人材育成 学校概要：相生市看護専門学校

兵庫県相生市汐見台2番地2 3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年

学校が位置する兵庫県相生市の地元には「ペーロン祭」という市の伝統的な祭りがある。この祭は今年で100周年を迎え、郷土文化として、地元住民にも愛されてきた相生市の伝統文化の一つである。ペーロン祭には毎年、多くの住民が祭の応援に駆けつけ、大変に賑わう祭りである。また、この祭は、32人で木造船の舟を漕ぎ、順位を競う祭である。

<経緯>1998年、当時の在校生らが、自主的に相生ペーロン祭への参加を決め、同時に「相看ペーロン部」が創設された。地元住民との交流はもとより、地元の祭りに参加をして盛り上げるという意味合いでも大いに歓迎された。そして、男女チーム共に、所属メンバーも増え卒業後も、ペーロン祭に在校生と共に、参加する者達が増えた。更に、創部8年目には、ペーロン部の卒業生だけで「相生市看護専門学校 海上運動会」と称して自主的に企画、運営する事となり、第1回大会が開催された。現在も毎年開催（コロナ禍で3年休止）している。ペーロン祭での両チームの競争成績としては、女子チームのSUPER DOLPHIN（スーパードルフィン）は女子の部を18連覇中、男子チームの磯風漕友会（いそかぜソウユウカイ）は男子の部を13連覇中である。現在、カリキュラム改正に伴い、学校全体でペーロン祭に限らず、市の3大祭の何れかの祭に在校生が、運営側に携わり、地元住民の皆さんとの交流を深めることを予定している。最後にペーロンの起源とされる中国のドラゴンボートというスポーツ競技においても、両チームは日本を代表するチームに成長し、日本選手権を現在も連覇中である。

時期	取り組み	内容
4月～10月	体験乗船	地域の方、ペーロンチームの方と共同。対象：子ども、保護者
5月	ペーロン祭 サポート	学校自治会とも共同
	ペーロン競漕 出場	2022年結果：男子「磯風漕友会」が13連覇、女子「スーパードルフィン」が18連覇
6月	海上運動会（看護学校）	相看ペーロン部のOB・OGによる運営 近隣の保育園の園児・地域の方の応援にて開催
	海上運動会（小学校） サポート	地域のペーロンチームの方と共同。対象：市内の小中学生（3、6年生）80名
	黒豆の種付	学校自治会とも共同。地域の敷地に種付、定期的な草引き等
7月	海の掃除	相生湾沿岸。相生自治会、沿岸企業、漁協、一般ボランティアと共同
	長崎ペーロン大会	相生市と親善交流のある長崎のペーロン大会に参加
8月	親子ドラゴンボート体験教室	「ドラゴンボート」に親子で乗り込み、海上遊覧&競漕を体験する。参加者：親子50組程度
9月	黒豆の収穫	学校自治会とも共同。地域の敷地の収穫
10月	学校祭	OB・OGとも共同、地域の方々に向けて参画
その他	ワクチンサポート	学校自治会、OGとも共同。コロナ禍のなかワクチン接種サポート 対象：地域の方（全年齢）
	国内・海外ドラゴンボート大会出場	国内では両チーム日本選手権を連覇中 海外へは2010年広州アジア競技会に日本代表として出場
	学会発表（示説）	「看護専門学校と人間教育」（専任教員）ペーロンを通して築き上げてきたことの実践報告（H21）
	広報（取材等）	依頼に応じて（相生のまちを通して）
	もみじ祭り	自治体とも共同。イベントに参加
	ボランティア（地域）	学校自治体とも共同。様々な保育園・地域の施設



<現役学生の声>祭の運営に携わった学生達は「3年ぶりのペーロン祭を通して地域の人々の期待に応えられたと思う」「地域活性化、地域貢献に繋がったように思う」と述べている。実際に祭で漕いだ1年生達は「地域の方々に励ま

され、すごく温かい気持ちになった」「ペーロンに参加して、沢山の皆さんの支えがあって出来ていることを実感した」と述べている。また、地域の方々と一緒に観覧していた学生達は「決勝戦の時に、多くの地域の皆さんが実際に声を出して応援している姿を見て頑張ることの素晴らしさを改めて感じた」と述べていた。それぞれの祭への参加の形は違っていたが、地元の人々と共に人として大事なものが育てていた。

<地域に貢献しているメンバー（卒業生）の活躍>：<https://m.youtube.com/watch?v=L6MZXQ6fCnY>

<今後の展望>今後も、相看ペーロン部の活動が郷土文化ペーロンを通して、相生市看護専門学校と地域を連携し地域コミュニティのなかで更なる地元の人々の健康増進に働きかけ、活気あるまちづくりの一助になりたい。